

平成30年度 学校評価報告書（目標設定）

|   | 視点           | 4年間の目標<br>(平成28年度策定)   | 1年間の目標   | 取組の内容  |   |
|---|--------------|--|--|--|---|
|   |              |  |  | 具体的な方策   | 評価の観点   |
| 1 | 教育課程<br>学習指導 | <p>①工業高校として育成すべき人物像を見据え、基礎学力の充実を図るとともに、企業・大学等のニーズにも対応できるような教育課程の編成に努める。</p> <p>②言語活動の活性化、協働的な学びを展開し、確かな学力を育成する</p> <p>③資格取得の機会拡大を図り、資格取得率を向上させる。</p> | <p>①・急速な産業構造の変化や科学技術の進歩に対応できるこれからの工業人を育成するために、今年度から再編成された新カリキュラムを軸として、工業系の基礎学力の習得に重点を置いた取組を行う。<br/>・学習指導要領の改正を受け、本校として目指すべき教育課程の編成に取り組む。<br/>・昨年度までの人権教育指定校の取組を継承し、生徒一人ひとりが、自己を大切にするとともに他者を尊重する姿勢を育成する。</p> <p>③個々の生徒に対する将来の進路選択を見据えた資格取得の精選と、生徒の意欲向上に繋がるような補習・講習の展開を検討し、実践する。</p> | <p>①・個に応じた粘り強い指導および補習等により、工業人として必要な基礎学力の定着と向上を図る。<br/>・新学習指導要領の内容を踏まえつつ、企業や大学等のニーズにも対応可能な教育課程の編成について検討する。<br/>・日々の実習を中心とした体験活動の充実や、他教科との連携を図ることを通じて他者と共感する能力・想像力・人間関係調整力を育むことができるような教育内容の充実を図る。<br/>・教科の授業内容を受け、ICT活用の機器整備を行い、目に見える形での教育内容の充実を目指す。<br/>・さまざまな教育活動を通じて引き続き人権教育についての取組を推進する。</p> <p>③生徒・保護者に対して、3年間を通じて計画的かつ有効な資格取得ができるよう早期に情報提供を行うとともに、合格率が更に向上するような補習・講習を展開する。</p> | <p>①・「工業高校として育成すべき人物像」について全教職員が共通認識を持ち、基礎学力及び発展的学力の向上について具体的に課題を解決するための取組が行えたか。<br/>・新学習指導要領に対応した教育課程編成を計画的に検討できたか。<br/>・ICT利活用について、機器整備を行ったことが授業での具体的な活用に繋がったか。<br/>・人権教育研究指定の取組を継承し人権に対する意識啓発を行うことができたか。</p> <p>③各種資格取得試験および講習会等における生徒の受検・受講者数が増加したか。また、昨年度と比較して合格者数が増加したか。</p> |
| 2 | 生徒指導・<br>支援  | <p>①基本的な生活習慣を定着させ、生徒が自ら社会のルールやマナーの意味を考える指導の充実を図る。</p> <p>②生徒主体の生徒会活動・行事の運営を推進する。</p> <p>③潜在的ニーズにも対応可能な教育相談体制の確立を図る。</p>                              | <p>①・社会性の基礎となる基本的な生活習慣を定着させ、社会のルールやマナーについて自ら考え行動できるよう自主自立の精神を涵養する。<br/>・交通安全指導の更なる充実を図り、交通事故のない学校を目指す。</p> <p>③SC等の活動を広くアピールすることで、SC、SSW利用、支援会議などの教育相談活動を活性化する。</p>  | <p>①・生徒指導方針を明確にして全職員で共有するとともに生徒・保護者にも徹底し、組織的・継続的・段階的に指導ができる環境整備に努める。<br/>・交通安全講話や、スケアードストレイト方式交通安全教室などを開催し、交通安全に対する意識を高める。</p> <p>③SCを職員、生徒に広くアピールし、利用しやすい環境づくりに努める。また、これを契機にケース会議、SSW活用の活性化につなげる。</p>   | <p>①・立ち番や巡回などを組織的にを行い、複数の教員で声かけや指導をすることができたか。指導の経過が分かるチェック表を作成し継続的・段階的に指導をすることができたか。<br/>・交通安全指導の徹底により、交通事故件数が減少したか。</p> <p>③SC、SSWの延べ利用者数、および、ケース会議開催数は昨年度を上回ることができたか。</p>   |
| 3 | 進路指導・<br>支援  | <p>①社会的・職業的自立のための力を育成する計画的なキャリア教育を実践する。</p> <p>②全員参加によるインターンシップのさらなる充実を図るとともに、進路選択に幅広く活用できる進路データベースを構築する。</p>  | <p>①生徒一人ひとりに進路を意識させるため、昨年度の進路実績データや基礎力診断テストの結果等を活用した進路支援を行う。</p> <p>②継続してインターンシップ体験事業所の確保に努める。また、生徒の就業体験に対する意識の向上を図り、将来の職業選択に直結するような有意義な取組として更に進化させる。</p>  | <p>①今年度の進路希望や基礎力診断テストの試験結果を昨年度の卒業生データ等と比較・検討し、生徒や担任が進路指導に活用できるようデータベース化を図る。そのため、試験結果分析についての精度を更に向上させるとともに教職員全体で情報共有し有効活用する。</p> <p>②毎年の取組がマンネリ化しないような方策を検討しつつ、生徒の意識を高めるような事前指導を徹底する。また、事業所側が求める人材についても調査し、生徒にとって将来の進路選択に役立つ有効な体験となるような工夫を行う。</p>   | <p>①進路指導に有効なデータベースを作成し、試験結果の検討会や説明会において、昨年度より多くの生徒や教員にデータの提供ができたか。</p> <p>②生徒の希望する事業所確保ができたか。また、生徒が充実感を得られるような体験となったか。事業所側の反応がどうであったか。</p>  |
| 4 | 地域等との<br>協働  | <p>保護者や地域との連携を推進することにより生徒のコミュニケーション能力の向上を図り、「生きる力」と豊かな社会性を育成する。</p>  | <p>・コミュニティスクールを通じて保護者や地域の教育力を活用し、学校の特色と課題に応じた取組を行う。<br/>・ホームページの充実と迅速な掲載を通して、教育活動の発信を活性化させる。</p>   | <p>・地域と相互の出前授業等の具体的な取組を検討する。<br/>・本校の現状と課題を整理し、保護者や地域と情報共有することで、学校目標達成に向けた姿勢を一致させる。<br/>・ホームページ掲載の仕組みを整備し、迅速な発信をさらに推進する。<br/>・配付プリントのホームページへの掲載についてのシステムを構築し、利便性の向上に繋げる。</p>   | <p>・コミュニティスクールを通じて保護者・地域との連携を推進することができたか。特に外部教育力の活用を図ることができたか。<br/>・ホームページの更新の頻度・閲覧カウンターの増加があったか。</p>   |
| 5 | 学校管理<br>学校運営 | <p>学校評価システムにおけるPDCAサイクルの「見える化」を実践し、安全・安心な教育環境の整備と事故防止に努める。</p>   | <p>地域と連携しながら、防災・環境に対する生徒の意識の向上を図るとともに、安全・安心な教育環境の整備を推進する。</p>  | <p>・国指定の「学校安全総合支援事業」やコミュニティスクールを活用し、地域と連携した防災訓練や環境に配慮した取組を実施する。<br/>・日常生活の中で防災・環境に対する意識を高める取組を実施する。</p>  | <p>・「学校安全総合支援事業」を活用し、地域と連携した防災訓練や環境に配慮した取組を実施できたか。<br/>・日常生活の中で防災・環境に対する意識を高める取組を実施できたか。またその結果意識の向上が図れたか。(アンケート調査等)</p>   |